

2023年9月2日（土）13：00～19：00

〈4日目〉

「ワークショップ③」

- 前半 Kōrari（コーラリ）体験③
コーラリ（マオリ・マーシャル・ダンス）を体験するプログラム
- 後半 舞台『Māui - One Man Against The Gods
（マウイ - ワン・マン・ア ゲインスト・ザ・ゴッズ）』鑑賞と質疑応答

■戯曲『プラプラフェトゥ』（抜粋）シーンスタディ 2日目の振り返り

参加者は円になる。お祈りのあと、3日目の発表の振り返り、Q & Aを行う。

○参加者 僕ら日本語でプレゼンテーション、パフォーマンスをしたでしょう。興味深く見てくれたのは良かったんですけど、どういうところをディレクターとして見ていたのか。というのと、どういう要素に引っかかって見ているのか。

○ブライア すごく感動した。日本語ってものすごくパワフルだっていうふうに感じました。昨日の夜、紀子（コーディネーターのコリンズ紀子）と優（実行委員の山上優）と話したんだけど、日本語バージョンにしてやっていけるんじゃないか。日本風にして、（日本の神様に置き換えれば）日本語版として、もっと身近に感じられるんじゃないかって。

○**参加者** 初日の内容の質問でもいいですか？ おでこを合わせて挨拶するとき、その説明で「呼吸を交換してる」って確かおっしゃられたんですけど、それについてもう少し詳しく教えて欲しい。(鼻をつける、という指摘を受け) あ、鼻をくっつけてたんですね。

○**ブライア** 「ホンギ」といいます。呼吸を交換することで、自分の先祖を交じり合わせている。

○**参加者** 交換っていうのは、お互いの呼吸を感じるってことですか？

○**コーディネーター** 本当はやりたかったんだけど、コロナの関係でやれなかったんですけども、一度経験すると本当に（自分自身が）持っていかれる感覚がわかる。

○**タネマフタ** いくつか違うホンギがあります。2回呼吸をするやり方。1つ目の呼吸は自分たちが生きるって意味の呼吸で、もう1つの呼吸は自分たちの先祖をあらわすもの。おでこ鼻をくっつけるやり方。一般的な鼻をくっつけるやり方。コロナの時期はできなかったので違う方法を考えていました。

手を合わせて「トゥクマナ トゥクオラ」と言うやり方。(両手を合わせ、左右前方に会釈をするような仕草) それで挨拶っていうことです。

コロナが始まった頃は(鼻の代わりに)肘をくっつけたり、足先でやったりしてたんですけども、やっぱりそれは良くないんじゃないかっていうことでこれになった。(手を合わせる)

○**参加者** その挨拶は日常的にするものなんですか？

○**タネマフタ** マオリの中では、日常的にやるものです。ニュージーランドは閉鎖をしたので、他の国に比べるとコロナの影響を受けなかったこともあって、(伝統的なホンギを)やる人もいたんですけども、嫌だっという人もいたので、この方法を考えました。

○**参加者** 『ブラブラフェトゥ』の中でやっていた挨拶はホンギなのか、それともキスなのか。

○**ブライア** あれは頬へのキスでしたね。いまは頬へのキスが一般的になっています。

○**タネマフタ** 組み合わせたりします。男性と男性の時はホンギをしたり、女性になるとキスをしたりとか、さまざまです。

私のおばさんがもっとホンギをする習慣を戻しましょうとキャンペーンをやりました。元々は、森の神様と地の神様がお花とか動物を作るためにホンギが生まれた。それは神話の話ですけど、そういう伝統を忘れないためにもう1回習慣を戻しましょう、というキャンペーンです。

○**参加者** 日常生活のなかで、どういう時に先祖を意識するのか。

○**タネマフタ** このセミナーを通して、マオリのスクリプトとかコーラリとかみんなでお祈りするときに、スピリチュアル的なものを感じたりとか、そういうのがありましたかというのを逆に聞きたいです。何か感じましたか。

○**参加者** 私は日本の東北地方の出身なので、先祖の話でいうと、おばあちゃんがお盆に、誰か来たから玄関に行ってくれる？ って言うので行ってみると、玄関がちょっと開いていて誰もいない。誰もいないけど誰かと話している。誰と話してたんだって言うとお先祖様と話してた、と。そういう話が普通にあるところなので、そういうつながりも感じていた。共通言語感があるなあ、と。

○**タネマフタ** 皆さん、各自で先祖とつながる方法を持っているはずなんですけど、マオリは民族でそういうものを作ってきたから、いつも感じられるんです。

○**ブライア** (アイヌに関わりがあると自己紹介で話した参加者に) アイヌの方たちは、今でも私たちと一緒にような文化的なこと、伝統的なことをやっているのでしょうか。

○**参加者** 私はアイヌではないんですけど、アイヌの人たちが身近にいて、事あるごとにお祈りはしています。現代の生活の中でできることをやっています。おばあちゃんの世代になると火が大切な神様で、昔は必ず家の中に囲炉裏があって火が絶やされなかったが、今は火がないので、ガスコンロの火にお祈りをしたりしています。

○**タネマフタ** 仏壇がありますよね。元の奥さんが日本人だったので、神棚や仏壇を見たことがあるので、よくわかります。私たちも先祖の写真を飾るから一緒だよ。

○**参加者** 昔の家ですね。今の我々が住んでるアパートにはないことが多いです。

○**タネマフタ** マオリの中でも現代的に生きている人たちもいっぱいいますから、そういうものから離れちゃっている人たちもいます。

○**参加者** マオリ語は（ローマ字を使っているが、そもそも）文字があるんですか？

○**タネマフタ** マオリはもともと言葉だけで、文字がありませんでした。文字がなかったので、彫刻で示していました。

現代のマオリ語アルファベットは15文字しかありません。ヨーロッパの人たちが来たときにローマ字を使い始めたけれども、その前はずっと耳でやり取りをしていた。

マオリの世界になかった言語もいっぱい入ってきた。そういうのを新しく作り替えてりしてきました。元々、乗り物っていうのは「ワカ」って言って、カヌーなんかを指すんですけども、車が入ってきて「モトカ」になったり。

○**コーディネーター** 日本語もそうですよね。

○**参加者** 『ブラブラフェトゥ』のお話って、父親と子どもの争いっていう「オイディプス」とか、他の国でよく似た話があると思うんですけど、マオリの伝承で父親との争いの話っていうのはあるんですか？

○**タネマフタ** 一番多いのは部族争いの話で、部族が別の部族の女性を連れていっちゃったとか、そういうお話が多いんだけど、お父さんと息子みたいなお話でいうと、息子がお父さんの部族を乗っ取ったとか、そういう話があります。

○**参加者** （ブライアに）参考にしたお話はあったんですか？

○**ブライア** すごく悲しい話なんだけれども、私のお母さんは私が生まれる前に、実は男の子がいたけれども、その男の子が水に流されて溺れてしまったんです。その子が死んだのは2歳だったので、私はそのことを知りません。

お母さんのところに行くといつも悲しみを感じます。だから、（登場人物の）アギー・ローズの気持ちもよくわかる。そういう経験をして、お母さんの悲しみもわかるんです。だから、書くということが自分にとって癒しになっています。

■コーラリ体験

○タネマフタ 明日いらっしゃる方に、今まで私たちが何を学んできたかってことを見て欲しいので、そのことに関して今日やります。

今まで習ったことを完成させて、明日来る方たちに見せてあげられるようにしましょう。

参加者は各々コーラリ（棒）を持ち、円になる。お祈りの時間。



<タネマフタのハカの実演>

この日のコーラリ体験クラスの後、タネマフタ氏によるコーラリのハカの実演が行われた。

参加者の拍手でしめられたあと、「もうちょっと軽い、ヒップホップの音楽に合わせてやるようなものもあります」と言って、より軽やかで現代的な動きが加えられたハカも実演してみせた。



55

○タネマフタ コーラリの棒の下に葉っぱがあって、それを編んでバッグを作るんですけど、それはいまではモダンに見えるバッグなんですね。おばあちゃんのやり方に従って編まれてきたバッグが現代的になってきているように、コーラリのハカも今のヒップホップ風にして現代的にしていってるんです。

もし、伝統的なものに対して何だよこの動きは、って言われたときに、僕はおばあちゃんから今までずっと編まれてきているバッグが現代的になってるんだから、僕もその道を辿ってるよっていうふうに言います。



コーラリの時間の終わりのお祈りが行われる。

■舞台『Māui – One Man Against The Gods

(マウイ – ワン・マン・アゲインスト・ザ・ゴッズ)』鑑賞

○**タネマフタ** これから2つビデオクリップを見て、その後に舞台『Māui – One Man Against The Gods (マウイ – ワン・マン・アゲインスト・ザ・ゴッズ)』の映像を見ます。

<タネマフタの経歴紹介>

タネマフタ氏が、これまでの経歴を語る。

「カパ・ハカ」という伝統的なマオリのダンスがルーツになっていること。

カパ・ハカとバレエとコンテンポラリーダンスを組み合わせたオリジナリティー。

ミュージカルをやるためにロンドンに渡り、いくつかオーディションを受けるなかで出会ったカンパニー「デ・ラ・ガルダ」。

自分の仕事を見つけるために6ヶ月という期間を決めていて、6ヶ月目の最後の日になって契約書にサインをしたこと。

○**タネマフタ** この経験をしたときに、自分で決めたことは自分でやり通そうと決めました。もし5ヶ月目で去っていたら、僕はここにいなかった。

1日目で見せたビデオクリップをもう1度見せます。

デ・ラ・ガルダのビデオクリップを視聴。

○**タネマフタ** 5年間、デ・ラ・ガルダにいました。それをどうやってニュージーランドに帰ってマオリの文化のなかに編み込んで何かを作り出せるか。それが今から見せるものにつながっていきます。

(作品に登場する)マウイは神様ではなくて、半分人間で半分神様の存在。マウイがやったことで有名なお話としては、太陽があまりにも早く沈んでしまうので、太陽を捕まえて、日の出る時間を長くさせた、というのがあります。夏の時間が長くなって、冬の時間が短くなるということです。このマウイの話を伝統的なマオリのダンスにくっつける。いろいろな道具を使ってマウイの世界を作り出しました。

実際に出てくる登場人物がわかるようにこれから短いビデオを見せます。

この後、舞台『Maui』の登場人物や舞台装置を解説するために短いビデオが何度か流され、舞台全編の鑑賞に移る。



<質疑応答>

○コーディネーター このままQ & Aに移るんですが、その前に、この作品は2005年から2007年にかけて上演されたものだそうです。2003年には短いバージョンもやったそうです。それでは、質問はありますか？

○参加者 リハーサルはどのくらい行ったのですか？

○タネマフタ 2001年から準備を始めました。約1億円を集めなければならなかった。

○参加者 自分で出演したくなったりしないんですか？

○**タネマフタ** 声が出なくなった出演者の代わりに、3回出演したことがあります。ニュージーランドで6万人がオーディションを受けました。ニュージーランドのショーの中で、ニュージーランドのストーリーとしては一番大きい規模です。

○**参加者** たくさんの歌や音楽がありました。どうやって作りましたか？

○**タネマフタ** 出演していた人たちがそれぞれ作りました。その他、私が作ったものもあります。

○**実行委員** ステージ数は？

○**タネマフタ** 61回公演です。2011年にラグビーのワールドカップがニュージーランドであったんですけど、その時の大きいスクリーンの横のスクリーンでも上映しました。

また、「クラウド」という場所がオークランドにあるんですけど、本当に「雲」のような形をした1万5000人くらいは入れる場所で、そこでも大きなスクリーンを2つ立てて、その真ん中でも上演しました。

○**参加者** 出演者にマオリの人はどれくらいいたんですか？

○**タネマフタ** 実際にステージに上がっていた19人中、16人がマオリです。その他にアンダースタディが3人、「クライマー」と呼ばれている、舞台装置の裏に付いているキャストが5人いましたが、彼らはマオリではありませんでした。

○**参加者** 日本でいう「神楽」のような、伝統的な神事と芸事が結びついているものがありますが、そういった意識で上演されているのでしょうか。それともあくまでエンターテイメントなのか。

○**タネマフタ** あくまでエンターテイメントです。しかし、作品中にカラキアも含まれているし、そういった守られた場所で、神様の物語を上演しているという意識には変わりないです。

○**参加者** 製作費について、政府からの助成はなかったのでしょうか。

○**タネマフタ** 「クリエイティブ・ニュージーランド」という政府のファンドがあるんですが、4万ドル出ていました。2005年の初演時にはどこからも何ももらえませんでした。

たが、ウェリントンで15万人の観客を集めたので、「クリエイティブ・ニュージーランド」は恥ずかしい思いをしたのでしょうか、その後は助成をしてくれましたよ。

○**参加者** 出演者はみなさん食べていけるのでしょうか。

○**タネマフタ** ニュージーランドにはミュージカルの協会がないので、俳優をフルタイムでやっている人たちはごくわずかです。大きな公演があっても、その後は何もない、といったことがよくあります。

○**コーディネーター** また個人的な感想があれば、ご自身で伝えてあげてください。

実行委員からいくつかアナウンスがあったあと、終わりのお祈りの時間。

記録：櫻井拓見